

患者(病馬) 現況

人員現況



第二小隊より十六時歸隊ス

六患者(病馬)ノ現況左ノ如シ

患者入院五名 練兵休一名 劇務休四名 計一名

病馬 林業馬一頭

人員現況左ノ如シ

現在人員 將校以下八六名

日本馬 六頭

部隊日直將校 永岡藤吉長

運動人員左ノ如シ

中岡 作業地 中村 中尉以下四名

徳田 作業地 山本 少尉以下四名

陸中日誌用紙

九月三日 晴 長

患者(病馬) 現況

人員現況

部隊ハ終日作業ニ依リ 洞窟ノ構築ニ左ノ

如ク作業ヲ續行ス

1. 洞窟構築作業

人員 根岸少尉以下三九名

2. 器材整備

人員 兵技下士官以下五名

3. 糧秣受領及集積

人員 小野上等兵以下二名

以上時間至八時 分 運動九時間

患者(病馬) 現況左ノ如シ

患者入院五名 練兵休一名 劇務休四名 計一名

病馬 林業馬一頭

人員現況左ノ如シ

現在人員 將校以下八六名

檢

日本馬 六頭

部隊日直將校 宮本曹長

出動人員左如シ

沖間作業地 中村中尉以下四名

徳佐田作業地 山本少尉以下四名

陸中 陸軍

九月十四日  
晴  
長

部隊日直令

一 部隊ハ終日作業ニ依リ洞窟構築作業左如シ  
作業ヲ續行ス

一 洞窟構築作業

人員根岸少尉以下三名

二 器材整備

人員兵枝下士官以下五名

三 糧秣受領並ニ集積

人員小野上等兵以下二名

四 時間並ニ分發時間

部隊日直命令 九月十四日

一 左ノ通り日直勤務ニ服従スヘシ

月 日 日直將校 日直下士官 日直上等兵

九月十五日 井田中尉 青島軍曹 坪井上等兵

十六日 同 同 同

某本報  
現者病馬  
現

二十日	齋藤 曹長	櫻井 兵長	法山 兵長
十九日	同	同	同
十八日	同	同	同
二十日	同	同	同
二十日	宮本 曹長	山口 候補生	小倉上 曹長
二十日	同	同	同

自本月以來 未開會 報列紙者 十如

患者（病馬）現況左如  
患者（院）五名 練兵休一名 劇務環四名 計一〇名  
病馬 休業馬 一頭

人員現況

人員現況左如  
現在人員 將校以下八六名

日本馬 六頭

部隊日直將校 井田 中尉

活動人員左如



極中田

仲間 休業地	中村 中尉以下四二名
德佐 休業地	山本 少尉以下四一名

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

陣中目録

九月十五日  
晴  
新長

二部隊ハ終日作業ニ依リ洞窟ニ構築路ニ在リ作  
業ヲ續行ス

1. 洞窟作業

人員根岸少尉以下三人

2. 器材整備

人員兵技下士官以下五人

3. 糧秣受領及集積

人員小野上等兵以下三人

4. 時間  
0.5時間至1.5時間 各々勤務8時間

三九時三十分井田中尉業務連絡ニ為シ師團司令部

至リ十五時三十分歸隊ス

三患者(病馬) 現況左如シ

患者八院五名 練兵二名 劇務兵四名 計一〇名

病馬 牝業馬一頭

井田中尉  
司令部  
患者(病馬) 現況

久高現況

西人馬、現況左、如シ

現在人員將校以下八六名

日本馬 六頭

部隊日直將校井田中尉

班助人員左、如シ

仲間作業地 中村ト

惣佐田作業地 山本

權

中日誌用紙

九月五日  
暴風雨  
公長

隊長歸隊

部隊日命

一、部隊ハ左、如ク作業ヲ續行ス

洞窟構築作業

人員 根岸少尉以下三八名

時間 朝八時、分夜勤八時間

二、穴木指導ニ爲、國頭郡方面ニ遊蕩中、隊長二十時

三十分歸隊ス

三、部隊日命 九月十六日

陸軍兵科員種部候補生

横田 豊

同

奥村 環

團長 階級ニ進メ見習士官ヲ命メ (八月十日附)

二、技術 陸軍一等兵 畑彦彦郎男

三、計 同 小山 資

右者昭和十九年度第一年度各部下士官候補者集會  
教育被教育者トシテ師團兵器部並ニ經理部ニ分遣ヲ

自14  
自14

命ス											
仍テ九月十九日十一時迄ニ師團司令部到リ係官ノ											
指示ヲ受クヘシ 服装携行品其他細部ハ別ニ指示ス											
三 陸軍軍医 小室 光治											
右者踏鐵釘修業ニ為師團病馬廠ニ分遣ヲ命ス											
仍テ來ル九月十九日十六時迄ニ該隊ニ到リ係官ノ指											
示ヲ受クヘシ											
服装携行品其他細部ハ別ニ指示ス											
現病者(看馬) 四 現病者(看馬) 現況左ノ如シ											
患者ノ病馬 一頭											
患者ノ病馬 一頭 練兵休一名 劇務休四名 計一〇名											
病馬 林業馬 一頭											
又馬現況 五 又馬ノ現況左ノ如シ											
現在人員 隊長以下八七名											
日本馬 六頭											

相

部隊日直將校 井田中尉											
出勤人員左ノ如シ											
仲間作業地 中尉中尉以下四二名											
徳佐田作業地 本少尉以下四〇名											


製 單

陣中日誌用紙

九月七日  
公務長

一 部隊ハ終日作業ニ依リ洞窟構築迄ニ至リ如ク  
作業ヲ續行ス

1. 洞窟構築作業

人員根出岸少尉以下三人名

2. 器材整備

人員兵技下士官以下五名

3. 糧食受領並ニ集積

人員小野上等兵以下二名

3.2 時間要領  
3.1 時間要領  
3.3 時間要領

二七時十分隊長技木指導報告並ニ發師團訂

令部ニ至リ十八時三十分歸隊ス

部隊日日命令 九月十七日

陸軍兵科之糧食給與補正 羽田 勝

同 九月十七日 羽田 勝

部隊日日命令三

部隊日日命令三

陸軍軍醫 階級二進八

二 陸軍外科 種幹部 疾補生 羽田 勝

同 山ノ口 時郎

九月二十日ヨリ師團ニ於テ實施セラルル集合教育ニ  
被教育者トシテ左記ニ依リ派遣ヲ命ズ

左記

一 集合日時 九月十九日十七時五分

二 集合場所 師團司令部

三 教育期間 一週間

其地服裝 携行品等別命ス

患者(病馬) 現況

四 患者(病馬) 現況左ノ如シ

一 患者(病馬) 練兵休一名 劇務休三名 計九名

五 人員現況左ノ如シ 現在人員隊長以下八七名

現在人員隊長以下八七名

日本馬 六頭

部隊日直將校 齋藤 善長

出勤人員左ノ如シ

仲間 作業地 中村中尉以下四二名

獲法田 作業地 山本少尉以下四一名

極



陸軍省 陸軍部

九月十六日  
分長

部隊ハ終日作業ニ依リ洞窟ノ構築級ニ左ノ如ク  
作業ヲ續行ス

一 洞窟構築作業

人員 根岸少尉以下三名

二 器材ノ整備

人員 兵技下士官以下五名

三 糧秣受領並ニ集積

人員 小野上等兵以下二名

四 時間 自八時至九時 分隊員動入時間

二 疾病(水馬)ノ為メ隊ヲ治療中ノ山崎上等兵ヲ癒第

一 小隊ノ復歸ス

三 患者(病馬)ノ現況左ノ如ク

患者ノ虎五名 練兵休二名 劇務休二名 計九名

病馬 休業馬 一頭

患者(病馬)ノ  
現況

第一小隊

人員現況

西人員現況左如之

現在人員 隊長以下八名

日本馬 六頭

部隊日直將校 齋藤君長

出動人員左如之

仲間作業地 中村中尉以下四名

徳佐田作業地 山本少尉以下四名



九月十九日  
晴  
翁長

一 部隊ハ終日作業ニ依リ洞窟構築作業ニ左ノ如ク作業ヲ續行ス

1. 洞窟構築作業

人員 根岸少尉以下三名

2. 器材整備

人員 兵技下士官以下五名

3. 炊事用薪採取

人員 那須上等兵以下三名

4. 糧糧採受領及集積

人員 小野上等兵以下二名

5. 時間 午前八時～午後八時

二 五時二十分頃至地第三小隊ニ於テ洞窟構築作業中

落蓋リ重傷村上上等兵輕傷北村一等兵二名ヲ出ス

状況別紙第一ノ如シ

村上上等兵  
北村一等兵  
受傷場

小山至兵下  
三名初回條補  
生以下三名  
師團司令部  
小室一等兵  
病馬廠へ

三 師團司令部於テ實施セラル各部下官候補教育班  
ニ種幹候補生集合教育ノ多小山一等兵以下名  
ハ九時三十分 初日候補生以下二名ハ十五時迄發ス  
四 師團病馬廠於テ實施セラル 蹄鐵班集合教育ノ爲  
小室一等兵九時三十分出發ス  
五 部隊日之命令 九月十九日  
一本職明二十日九時ヨリ實施セラル 部隊長會同  
ニ出席ス  
二 陸軍部長 齋藤親三郎  
右者來ル二十五日九時ヨリ師團司令部於テ實施セ  
ラル 蹄國神社合祀關係主任書記集合教育  
ニ出席ス命ス  
三 陸軍中尉 井田 寅二  
陸軍軍曹 青島 祐二

陸軍中尉 井田 寅二

患者(病馬)  
現況

入馬現況

右者來ル二十五日九時ヨリ師團司令部於テ實施セ  
ラル 機密掛將校(下士官)集合教育ニ出席ス命ス  
四 陸軍一等兵 石倉常四郎  
右者器材率領ノ爲本十九日即日歸隊ノ豫定ヲ  
以テ那西朝ニ出張ヲ命ス  
初部ハ別命ス  
六 患者(病馬)現況左ノ如シ  
ハ落盤ニ依リ重傷セル村上上等兵 齋藤 忠者 陸軍兵  
ニ入院ス  
又患者入院名 練兵休五名 劇務休三名 計一四名  
七 入馬現況左ノ如シ 病馬休業馬一頭  
八 人員 隊長以下八名  
日本馬 六頭  
部隊日道將校 齋藤 曹長

運動人員左ノ如シ  
沖繩作業地 中村中尉以下四三名  
徳佐日作業地 山本少尉以下四三名

姓名	官氏名	受傷場所	受傷年月日	受傷状況

洞窟作業中落盤ニ依ル受傷状況報告

一所屬部隊名 石第三五九八部隊  
二受傷者 陸軍上等兵 村上 豊 (重傷)  
官氏名 陸軍一等兵 北村 光男 (輕傷)  
三受傷場所 沖繩縣中頭郡西原村多幸地  
四受傷年月日 昭和十九年九月十九日五時三十分  
五受傷状況  
(1) 村上等兵、並北村一等兵、頭部作業手トシテ洞窟入口ヨリ約十米奥附近ニ於テ爆破用穿孔作業實施中(村上等兵、槌手北村一等兵、鑿手)十五、十六日ノ降雨ニ依リ湧水地質、ユルミヲリタル洞窟上部(天井)突然崩壊シ二百疋大ノ土塊落下シ頂板頂材、柱ヲ破損シ二名共其ノ下敷トナリ受傷ス直ニ小隊全員ヲ以テ洞窟ヨリ搬出スルモ村上上等兵ハ意識不明

ニシテ脈搏殆ド觸ル能ハズ速カニ衛生兵ヲシテ急心  
救法ヲ實施セシメ軍醫商ノ来診ヲ待テ十分後  
受診送院ス

北村一等兵ハ右下腿ニ腫張及輕度ノ自發痛ヲ  
認ルモ顔色顔貌異状ナシ

六症 状

- (1) 肘上上等兵、第五、六、七肋骨骨折及第一腰椎骨折
- (2) 北村一等兵、右下腿挫傷

七原因ト認ルベキ事項

(1) 降雨ニ依ル地質ノユルミ

八將末ノ參考

- (1) 指揮官ノ陣頭主義ヲ發揮
- (2) 折曲部ハ特ニ土壓ニ對スル弱點部ナルヲ以テ之カ  
框設置ノ研究

陸軍

九指揮官ノ執リタル處置

- (1) 框ノ土壓ニ對スル効力算定ノ徹底
- (2) 折曲部ノ堅確ナル框ノ設置
- (3) 折曲部ノ作業要領ノ徹底